

毎週来院している50代女性から、夕方、「これから診てもらいたい」と電話。急な予約は初めてである。3週間程前から軽い唇と顔の荒れが続いていて、2日前にも治療をしていた。上腹部が虚し(エネルギーが少ない)、それに対応して胸下部が邪熱(異常な気と熱)を帯びていた。この邪熱が上に昇って唇や顔を荒れさせていた。黄連湯という漢方薬の併用を勧め、処方して貰えそうな診療所を紹介しておいたところだった。

夜の来院時に話を聞くと、友人から「漢方専門医」を紹介されたので、私の紹介した診療所は受診せず、そこを受診したところ、桂枝茯苓丸・四逆散という漢方薬と、ワセリン、タクロリムス軟膏(アトピー性皮膚炎治療剤)、へパリン(血行促進・皮膚保湿剤)等を処方され、使った。そうしたら翌朝、腰痛、頭痛、頭熱、下痢し、手足が冷えた。お腹の不快感があり、夕方には嘔気がして、朝より症状が悪化していると言う。

漢方専門医ならば漢方薬だけで勝負して欲しいが、西洋薬もたくさん処方されている。結局、通常、こういう場合に使いそうな西洋薬に加えて、漢方薬を使っている。漢方薬に自信がないか、あるいは「東西医学を総合的に活用している」ということだろうか。このような形で漢方薬を使っていれば、何が効いたか分からず、漢方を経験的につかんでいくということもできないだろう。

診ると、いつも虚している(エネルギーが少ない)上腹部は更に虚し、冷えている。虚の範囲も下腹に及んでいる。下痢しているのは、このために胃腸の消化機能は落ちているからだ。また普段も腰痛になり易いが、腹部の虚が普段より強く、それが腰部にも広がっているため、更に筋肉の働

きが落ち、腰痛も強くなっている。嘔気は胃の働きが落ちているために胃に水穀が停滞した上、その影響が胸の中下部に邪熱をもたらしているためだ。腹部は虚寒、胸部は邪熱という形で、全身的には上熱下寒となっている。全身的にも気の流れが悪く、脈は弱く波打っていない。頭は虚し熱が冷まることができないために熱くなる。脳に栄養が行かないので頭痛する。首肩も虚による凝りである。また、下寒のために、手足が冷える。

鍼で手首から経脈を通して、腰仙部のお灸で、お腹の虚寒に対処した。腰痛をもたらしている腰のスジには直接、鍼して緩めた。胸の中下部の邪熱に対しては、手の経脈を通して瀉法(邪熱を取り去る方法)の鍼を行ない、更に、背部で邪熱が発散しているところを鍼で瀉した(邪熱を取り去った)。脈は最初より少し波打つようになり、拍動もやや強くなった。気の流れが感じられなくなっていた頭頂部の気も動き始めた。患者は症状が落ち着き、喜んでいた。

ワセリンのみ使うよう助言した。桂枝茯苓丸はやや実証向けの婦人薬として有名で、顔の荒れに使われることはあるが、お腹が虚しぎみのこの患者の状態には合っていない。下腹部に血毒によるやや充実感が必要で、それが無いのに使ったのは誤用である。四逆散もやや実証向け、処方された理由は分からないが、誤用である。

1週間後に来院。頭痛のみ少し残り、お腹はだいじょうぶ、唇・顔の荒れもほぼだいじょうぶで、下肢のしびれが少しあると言う。治療して、頭痛も下肢のしびれも収まった。

漢方薬を勧めることはあるが、「漢方専門医」には診てもらいたくない。(2017年6月夏至)

